

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571900218		
法人名	社会福祉法人 信愛会		
事業所名	グループホーム たちばな	ユニット名	1号館
所在地	宮崎県宮崎市高岡町内山2407番地3		
自己評価作成日	平成24年9月28日	評価結果市町村受理日	平成24年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4571900218-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4571900218-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成24年10月26日(金)		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・各ユニットの理念を意識し、ケアに活かしている(個別ケアを心掛けている)。  
 ・残存能力を把握し、維持・向上に努めている(転倒防止)。  
 ・感染予防対策(手洗い、口腔ケア、更衣、消毒、掃除)  
 ・全体行事(運動会、夏祭り等)G・H独自の行事(年3回の家族とのふれあいデー)が盛り沢山で、ご家族、地域の方々の参加が年々多くなってきている。また、家族との関わりについても、面会時や毎月末にこまめに状態報告を行ったり、ふれあいデーや夜間カンファの参加協力を呼びかけ、利用者との共有時間をとってもらうようにしている。  
 ・季節ごとの行事を織り込み、また、季節ごとに花や菜園での野菜作り、室内装飾の工夫等で、利用者の方々に季節感を味わってもらっている。利用者や家族の思い出作りのための写真撮影に、力を入れている。  
 ・園外研修に多く参加し、定例研修会での報告の場を設け、全職員の質の向上に努めている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームたちばなの3ユニットそれぞれが、独自の理念に基づき、職員一丸となって利用者へ寄り添う支援を実践している。職員教育については、積極的に園内・外研修を計画し、組織として柔軟に動ける体制作りがなされており、年に2回の人事考課も現場職員の意欲付けにつながっている。利用者や家族の希望・要望については、アンケートなどを利用して、積極的に情報収集・検討が行われ、より密着した関係作りを目指して、職員全員で前向きに対応している。グループホームとデイサービスの連携はもちろん、同敷地内の老人関係施設や医療機関との協力関係も構築されており、利用者や家族、共に安全で安心できる環境下にある。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の定例研修会にて、職員全員で唱和して共有している。		法人の基本理念とは別に、各ユニットごとに職員全員で話し合い、作成した理念を共有し、定例会やミーティング時に確認して、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運動会、夏祭り、敬老会を通して、交流している。		法人主体の行事を中心に、地域住民や地区園児、学生、ボランティア等との交流を深め、地域との交流を積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座の講師(キャラバンメイト)として、研修に参加している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、地域包括支援センター職員、地域老人クラブ役員等の意見を聞き、改善している(2か月に1回実施している)。		年6回の運営推進会議の中で、参加メンバーと近況報告や意見交換を行っている。家族代表については、2年ごとに代表を交代して参加してもらうことで、より多くの意見収集と協力を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターと連携している。		日々の連絡や相談等は、地域包括支援センターを中心に行っている。市主催の研修等に参加した際は、積極的に市から指導を仰いでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。		身体拘束については、研修やユニット会議で随時、学び合っている。以前、徘徊対策で玄関に施錠をしていた時期があったが、現在は、日々利用者に寄り添い、状態を把握することで、鍵をかけない支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について研修で学ぶことがあり、防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学ぶ機会がある。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類に目を通してもらい理解・納得してもらっている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行っている。		家族には、機関誌やホーム便りを発行して、ケア状況を伝えたり、来訪や夜間カンファレンス時に意見や要望を傾聴するよう心掛けているが、利用者や家族の思いを反映する機会が少ない。	家族アンケート調査を分析して、利用者や家族の意見、要望を運営に反映させる取組を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例研修会やリーダー会、また、個人面談で意見や提案を聞き、改善に努めている。		職員、リーダー、主任、管理者それぞれが自分の意見や思いを伝え合い、検討する場が設定されている。また、年2回の人事考課も職員の意識向上につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課で、管理者と面談し、要望を伝えている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加し勉強している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	G・H中央ブロック研修会に参加している。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の考えを聞き、要望に添った介護を行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要とするサービスを見極め、対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊厳の気持ちを持って接している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡を密にし、信頼関係を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会を呼び掛けている。	家族が参加する行事(「ふれあい」の名が付く行事)を計画し、協力依頼を行ったことで、利用者と家族の関係が以前より親密になってきている。	友人・知人の来訪を呼びかけたり、年に数回でもなじみの場所に外出ができるよう計画するなど、なじみの関係継続ができるような支援を期待したい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂に誘導し、対話できる場を提供している。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談・支援に努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの要望や希望を把握するように努めている。		入浴時や夜間の余暇時に、1対1でゆっくりと話したり、寄り添う支援を行うことで、利用者の思いを聞き出している。意思疎通の困難な利用者については、家族から聞き取りを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントをとり、活かしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録をとり、報・連・相を十分にとっている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにて話し合いを行い、利用者主体のプランを作成している。		毎月モニタリングを実施し、記録している。見直しも3か月ごとに行い、その人らしい生活が送れるよう、意見、要望、気づきを反映した支援計画を立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン実践表を毎日記録し、次回のプランに反映している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望を聞き、柔軟な対応を心掛けている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアと民生員の協力を受け、楽しまれている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に受診している。	併設の病院以外の定期受診は可能である。職員は、AED(自動体外式除細動器)、心肺蘇生等の講習を受けており、緊急時対応の訓練も行っている。医療関係とは、確実な連携が取られている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設病院の看護師と相談しながら、対応している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係者との情報交換を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	いつ何があるか、分からないことを説明している。	入居の段階で、重度化や終末期の在り方について書面にて説明が行われ、内容については家族も同意している。利用者の状態によって、併設施設内の移動が可能であるため、本人・家族にとっては、安心できる流れとなっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練を受けて、身につけている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、避難訓練を行っている。	各ユニットごとに、日中・夜間それぞれを想定し、避難訓練を毎月実施している。グループホーム全体では、総合防災訓練として年2回、そのほかに法人全体の訓練にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カーテンを使用し、本人にあった声掛けをしている。		利用者のペースを尊重し、その人に合った誘導や声掛けを行っている。押しつけでなく、本人の気持ちに沿ったケアを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	要望や希望を傾聴している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の要望に合わせている(洋服や化粧品等)。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人に出来る事をしてもらっている(盛り付け、台拭き等)。		調理・盛りつけ・後片づけなどは、利用者と職員が各ユニットごとに行い、全員で同じものを食べている。自己菜園の野菜を使用することで、食への関心を引き起こしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握している。		利用者一人ひとりの排せつ状況をチェック・把握し、日々の支援内容を検討している。利用者によっては、誘導時間を調整することで、紙パンツから布パンツに移行した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を十分に行い、体操を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりのペースに合わせている。		各ユニットごとに、週2～3回の回数で入浴支援を行っているが、状況によっては他のユニットでの入浴も可能な体制になっており、希望があれば週4回利用できる。言葉掛けを多くし、ゆったりとした雰囲気作りに努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠れるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬を理解している。服薬変更のあった時には、様子を記録している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の役割や楽しみを毎日提供している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族とのふれあいで、ドライブや公共施設に行っている。		敷地内の散歩から、ドライブや買い物を絡めた外出を計画し、実施している。家族にも協力を依頼し、「ふれあいドライブ」と称して、フローランテや生目の杜等にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要なものは家族に報告し、家族や担当職員が購入している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛ける事はない。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁画で、季節を感じてもらっている。	季節感を重視した作品や趣味の品々が飾られており、温かい雰囲気のある共用空間となっている。ユニットによっては、居室の入り口に写真がはってあり、利用者が迷わないような配慮をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で、思い通りに過ごしてもらっている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを居室に置いている。	各ユニット内に、畳またはフローリングの居室が配置されており、利用者それぞれに合った空間作りがなされている。机や仏壇、置物、家族写真などのなじみの品々も、居心地のよいように配置されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事は、自分でしてもらえようような関わりを持っている。			